揚口説

凡て四十拍子　一拍子六分九厘脉

一、げにや都の春の空
　出づる日影ものどかにて
　咲くや桜に梅の花
二、色と匂に誘はれて
　老も若きも諸共に
　袖を引きつれ立ち出でて
三、花の色々籠に入れ
　此処や彼処に行き巡り
　長き春日の暮るるまで
四、帰る家路をうち忘れ
　花をかざして舞ひ遊ぶ
　春のけしきの面白や

※かぎやで風節
　眺めてもあかぬ春の景色